

G-SEC Newsletter

No.33 2012.11.1

G - SEC 復興リーダー会議の試み

復興リーダー会議委員長 細田衛士（慶應義塾大学経済学部教授）

副委員長 田村次郎（慶應義塾大学 G-SEC 副所長、法学部教授）

---- 「復興リーダー会議」は、今年度の G-SEC の事業の柱の 1 つですが、その趣旨やねらいについて伺いたいと思います。（事務局）

田村 昨年の震災発生後、現地に入りその惨状を目の当たりにして、多くの方と同じように、何かをしなければいけないと痛感しました。義塾からは、医療チームや学生・教職員有志による支援活動が行われており、G-SEC では、竹中所長が有識者を集め、震災で起こったことの実態把握と分析を行い、それらをまとめた書籍を 4 か国語で出版して現地でシンポジウムを開催するという、震災関連の活動でも唯一といえる海外への発信事業に取り組んでおられました。私が担当する Faculty Seminar では、震災からの復興について中・長期的な視点から分析と課題把握に取り組んでいました。そのような中で、アカデミアの活動としてどのようなことがふさわしいのかを考え、たどり着いたのが「復興リーダー会議」でした。

---- 細田先生には、Faculty Seminar で、「震災復興を契機とした資源循環型社会の新しいパラダイム」というテーマで、震災をきっかけに露見した廃棄物処理の課題から、新たなパラダイムの下に循環型システムを構築して行くことの必要性を講演いただき、本会議の委員長を引き受けて



WEBRONZA 矢田義一撮影

いただきました。

細田 私も被災地を見て、抱いた思いは同じでした。復興に携わる人々の苦勞に心を打たれました。田村先生よりこの企画を伺い、復興現場で活躍するリーダーによる討議を重ねながら課題解決に取り組み、その成果を社会と共有する。彼らを支援することにより、被災地の、さらには日本の復興につなげる。そして、一連の活動を通してリーダーの育成についてスタディして、従来の日本型のリーダー像にとらわれない、日本発グローバルリーダー像とその育成プログラム作りにつなげていく。この着想に、これまででない、真のリーダー育成につなげられる可能性を感じ委員長を引き受けることにしました。

G-SEC Newsletter

< 巻頭特集 > G - S E C 復興リーダー会議の試み
復興リーダー会議開催報告 第3回

---- 「復興リーダー会議」の活動は、震災から1年を経過してからのスタートとなりましたが。

田村 前述のねらいを達成するために、運営側の一方的な思いではなく、現地で活躍するリーダーをはじめとする復興事業に携わる方から話を聞き、具体的な活動内容を検討することとしました。昨年の夏から秋にかけて数回にわたり、NPO 法人のリーダー、中央官庁や地方自治体で復興事業に携わる方々にお集まりいただき、企画を練り上げました。

細田 30代、40代の方が中心でしたが、自己の周辺・現時点での問題の解決を社会と共有し、さらには、今後も繰り返すことが想定される自然災害からの復興モデルとして、日本にとどまらず世界と共有していきたい。公共の意識の高さと熱意が印象的でした。

これらのステップを経て、会議運営の企画を立てるとともに、趣意書にまとめて会議委員を紹介いただき、4月からの開催となりました。

---- これまでに5回の会議を重ね、9月には盛岡で合宿を行いました。合宿の成果も含めて紹介いただけますでしょうか。

田村 会議では、「教養」と「実務」の2つの視点から講師をお招きして、講演とそれに関連した対話と議論を重ねました。合宿では、事前に委員より集中的に討議したい事項を募り、以下の5つのテーマについて、グループ討議を行い、それをアクションプラン(提言)にまとめて発表会を行いました。

- ・中長期にわたる現地の復興支援(生活基盤づくり)
- ・組織連携による復興支援の枠組み
- ・行政の役割(しくみ、制度、改革)
- ・被災地における産業復興策 1次産業、2次産業
- ・教育からの創造的復興

細田 合宿には、本会議のアドバイザーをお願いしている参議院議員の鈴木寛氏、被災自治体より岩手県知事の達増拓也氏に参加をお願いして、グループ討議への参加と、アクションプランに対する講評とアドバイスをいただきました。国、自治体の政策の参考にしていただけると、委員にとって励みになると考えます。田村 合宿で作成したアクションプランは、今後の会議でブラッシュアップしていき、総括シンポジウムでの発表や研究成果報告書につなげていく予定です。

= 復興リーダー会議趣意書より抜粋 =

東日本大震災直後の、想定すらできない現場に身を投じて被災者救済を指揮した人々、国や自治体が十分に機能しない現場において被災者支援を指揮した人々、未曾有の事態からの復興の重責を託された人々、彼らは組織や環境が安定した状態(平時)におけるリーダーシップに加えて、平時とは大きく異なる事態において自ら判断し行動できる能力が求められ、その姿は、G-SECが目指すグローバルリーダーと重なる。本プロジェクトは、被災地での支援活動で実績を積んだリーダーや、今後の復興を担う人々による「復興リーダー会議」を立ち上げ、被災地での救援や支援に関する情報交換、復興に向けての議論や勉強会を重ねることにより、以下のような成果につなげ、それを社会と広く共有していくことを目指す。

- ・復興を支援・推進するプログラムやネットワークづくり
- ・被災直後の避難支援、避難生活の支援、復旧、復興等の活動モデルづくり
- ・日本発グローバルリーダー像とその育成プログラムづくり

復興リーダー会議開催報告

第3回(2012年6月16日(土)東館G-SEC Lab.)

第3回会合は、委員33名の出席により開催された。

今回は、リーダーに求められる重要な役割の1つである「現場における判断と対処」をテーマに取り上げた。

第1部では、伊勢崎賢治氏の講演では、国家的な非常事態を想定し、「セキュリタイゼーション」、「脅威」などをキーワードに、アフガニスタンや福島を事例として「平和はつくれるか」という課題が取り上げられ、続いて、会議委員を交えた討議が行われた。

第2部では、西村雄一氏より、サッカーにおける審判の役割を事例として、刻々と事象や環境が変化する現場において、いかに判断・対処するか、そこにおけるリーダーの役割やあり方についてキックオフスピーチをいただき、会議委員による質疑応答や意見交換が行われた。

第1部 「平和はつくれるか」

講師：伊勢崎賢治(東京外国語大学大学院教授)

第2部 「スポーツの秘める無限のパワー」

講師：西村雄一(日本サッカー協会レフェリー)

第4回 (2012年7月21日(土) 東館 G-SEC Lab.)

第4回会合は、委員29名の出席により開催された。
今回は、「リーダーシップ」について、教養の視点、実務の視点、それぞれの視点から取り上げた講演をいただき、引き続き対話と議論が展開された。

第1部では、村上陽一郎氏より、「教養」「古典」「エリート」などをキーワードに取り上げた講演をいただき、「リーダーは目指すべきものか」というテーマについて会議委員を交えて意見交換が行われた。

第2部では、折木良一氏による講演に続いて、「状況判断」「権限と責任」「信頼感」などをキーワードに取り上げ、今般の震災における防衛省・自衛隊における指揮活動を事例として、リーダーが論理的に判断を行なうためには、リーダーは如何に育つか、育てられるか、非常時に求められるリーダーとしての資質について、議論が交わされた。



第1部 「リーダーシップとは」

講師：村上陽一郎（東洋英和女学院大学学長）

第2部 「東日本大震災における防衛省・自衛隊の指揮活動」

講師：折木良一（前防衛省統合幕僚長）

いわて合宿 2012年9月22日(土・祝) ~9月23日(日) 岩手県盛岡市

復興リーダー会議合宿は、委員31名の参加により、本会議のアドバイザーをお願いしている参議院議員の鈴木寛氏に参加いただき、岩手県知事の達増拓也氏をゲストにお迎えして、岩手県盛岡市にて開催された。

今回は会議委員に加えて、宮古市、大船渡、気仙、大槌町、沿岸部にて復興支援活動中のNPO法人等のリーダーにもオブザーバーとして参加いただいた。

合宿の準備段階で、会議委員の要望を受け、復興に関わる会議委員が抱えている課題・背景・解決策案を投稿により集約し、事前に5つのテーマを設定した。

合宿では、グループごとに課題の共有や解決に向けた議論を集中的に行い、アクションプラン(提言)を作成し、発表に至った。議論には現地(岩手県内)で震災復興活動を行っているリーダーにも参加していただき、鈴木議員、達増知事には議論への参加と発表に対する講評とアドバイスをいただいた。

アクションプランは合宿の成果として、今後の会議でブラッシュアップし、総括シンポジウムでの発表や研究成果報告書につなげていく。





G-SEC Square 2012 事前申込不要 @ OPEN RESEARCH FORUM 2012 開催



慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所 (G-SEC) は、以下のセッションとブース展示で慶應義塾大学 SFC 研究所が主催する Open Research Forum(ORF) 2012 に参加いたします。昨年より引き続き研究を続けております震災復興に関する活動およびバブル後の四半世紀を検証する新たな研究活動など、G-SEC の最新の動きを紹介いたします。

竹中平蔵 (G-SEC 所長、総合政策学部教授)

詳細は G-SEC ウェブサイトをご覧ください

<http://www1.gsec.keio.ac.jp/text/freepage/index/32/>

セッション 1

テーマ:「今こそ考える被災地の復興
慶應 G-SEC 復興リーダー会議の試み」

日時: 2012 年 11 月 23 日 (金・祝)
11:00 - 12:30 (開場 10:40 予定)
会場: 東京ミッドタウン カンファレンス Room9

講演: 木川 眞氏
(ヤマトホールディングス株式会社 代表取締役社長)
パネリスト: 藤沢 烈氏
(一般社団法人 RCF 復興支援チーム代表理事、復興庁
政策調査官)
龍治玲奈氏
(日本マイクロソフト株式会社法務・政策企画統括本部
渉外・社会貢献課長)
葛巻 徹氏
(特定非営利活動法人いわて連携復興センター事務局長)
高橋大就氏
(一般社団法人 東の食の会事務局代表)
進行: 田村次朗 (G-SEC 副所長、法学部教授)

セッション 2

テーマ:「バブル後四半世紀を検証する」

日時: 2012 年 11 月 23 日 (金・祝)
13:00 - 15:00 (開場 12:40 予定)
会場: 東京ミッドタウン カンファレンス Room9

ゲスト: 高橋洋一氏
(嘉悦大学ビジネス創造学部教授)
藤田 勉氏
(シティグループ証券株式会社取締役副会長)
進行: 竹中平蔵 (G-SEC 所長、総合政策学部教授)

Open Reading Forum (著書展示企画)

『日本大災害の教訓 複合危機とリスク管理』
日・英・韓・中の 4ヶ国語版 4冊
竹中平蔵・船橋洋一 編著

ブース展示

日時: 2012 年 11 月 22 日 (木) ~ 23 日 (金・祝)
会場: 東京ミッドタウン ホール

グローバルセキュリティ研究所として以下の研究プロジェクトの研究内容をご紹介しますブースを出展いたします。ポスター展示およびデモンストレーションを行います。

- ・復興とリーダーシップに関する研究:復興リーダーシップ教育プロジェクト (研究統括: 田村次朗)
- ・アメリカ研究プロジェクト (研究統括: 竹中平蔵)
- ・慶應 - 国連 PRME プロジェクト (研究統括: 梅津光弘)
- ・ソーシャルメディアを活用した実空間におけるコミュニケーション設計及びデザイン手法の研究開発 (研究統括: 武山政直)
- ・ソーシャルメディアを活用した価値共創手法の検討 (研究統括: 武山政直)